



【先週のメッセージより】 聖書：創世記 1：31～2：3

タイトル：「健全な世界観／幸せな人生を導く5つの鍵」

★ 世界観とは「自分がそもそも世界をどのように見ているか？」という問いに対する答え、とすることができます。具体的に四つの質問を考えてみた時に自分の持っている世界観がはっきりします。

- 1) ORIGIN 起源：世界はどのようにして成り立ったのか？どのようにして始まったのか？ 始まりなどそもそもあったのか？
- 2) MEANING 意味：世界、人類、隣人、自分の存在にはいったい、どのような意味があるのか？
- 3) MORALITY 倫理／善悪：善悪を感じるこの感覚はどこから来るのか。なぜ正しいと信じていることを行うことができないのか？
- 4) DESTINY 行き先／将来：世界はどこに向かっているのか？明るい未来なのか、暗い未来なのか？ 何がいったい起こるのか？

★ では「健全」な世界観とはなんのでしょうか。それは、上記の四つが互いに論理的にも実際的にも矛盾なく対応しており、私たちが毎日体験している現実と合致していることです。またこの世界観に基づいて行動した時に、自分のみならず、隣人、社会全体に喜びが生じる、ということが「健全」な世界観であることの証拠です。

★ 多くの人は、上記の四つの問いかけに対して、互いに矛盾した回答しか持っていません。道徳的な神などおらず、全てが偶然に発生し、弱肉強食が世の原理、強い者が生き残る、と信じている人がいたとしても、その人自身、自分に災いが降り掛かって来た時に、不公平感を感じたり、自分の将来に対して不安を感じたりするのです。

★ 私たちは「聖書がまぎれもなく神の言葉である」ことを信じるのはまさに聖書が上記の四つの問いかけに対して、互いに矛盾せず、心に深い満足を与える解答を提供してくれることが段々分かって来るからです。健全な世界観は一日にして形成されることはありません。地道に聖書を学び続けていく中で、役に立たない世界観を捨て、実質のある、役に立つ世界観を持って歩んで参りましょう！

【この教会のビジョン②】

※ **フェアフィールド、ウェストチェスターを中心とするニューヨーク・メトロポリタン地域に住む日本語を話す人々に福音を伝える。**

今週はこのビジョン宣言文の後半、「人々に福音を伝える」ことについて考えてみましょう。

● 使徒ペテロはクリスチャン一人一人に「あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。」(第一ペテロ 3:15)、と命じました。「用意をする」ためには、時間をかけ、考えをまとめ、練習をしておく必要がありますね。いつでも自分の証しができるように、5つくらいのポイントを書きだしておいて聖書とか財布に入れておき、時折引っぱりだして練習することはよいことです。礼拝での証しも絶好の練習場所です。

● 福音とは何かを正しく理解し、正確に伝えることができるようになることも大切なことです。アポロという人が使徒18章に出てきますが、彼は「雄弁」で「聖書に通じ」ており、「主の道の教えを受け、霊に燃えて、イエスのことを正確に語り…教えていた」のですが、その彼に「神の道をもっと正確に彼に説明した」人たちがいました。プリスキラとアクラという信徒夫婦です。福音は子供にもわかる単純さがありますが、学者にも追求し切れない深さがあります。福音は頭の知識と共に、主イエスを人格的に知り、体験していることの全てです。理解を深めましょう！

● 最後に誰が福音を伝えるのでしょうか。専門の伝道者だけがすればよいことなのでしょうか。ペンテコステの日に救われたエルサレムのクリスチャンたちは、やがて否応なく、一人一人が宣教する状況に追い込まれました。ステパノの殉教後「エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外の者はみな、ユダヤとサマリヤの諸地方に散らされた。」(使徒 8:1) とありますが、続く4節で「散らされた人たちは、みことばを宣べながら巡り歩いた」と書いてあるのです。第二次大戦後、共産主義の圧政の中、中国で地下の教会が爆発的に広がったのは、実は、海外からの宣教師たちがすべて国外追放になり、中国人牧師／伝道者たちが投獄された後のことでした。信徒一人一人が福音の担い手となったのです。

● 礼拝を終えて教会の玄関を出ると、そこは皆さん一人一人の宣教地です！御霊の力に信頼して新しい週に漕ぎだしましょう！